

## 東京・大阪中央郵便局庁舎の保存に関する取組み

南一誠 [芝浦工業大学教授]

### 危機に瀕した二つの都市建築

通信省営繕課（吉田鉄郎）の設計による東京中央郵便局（1931年）は首都東京の表玄関という都市の枢要な位置に立地しており、東京駅から皇居に向かう都市軸を構成するうえで、欠かせない役割を75年以上にも渡って担ってきた。同じ設計者による大阪中央郵便局（1939年）とともに、最高高さが31mであった時代に計画された都市建築の優良な型を示している。

この二つの建築が今、取り壊しの危機に瀕している。日本郵政公社は2007年5月1日から14日まで、東京中央郵便局が所在する丸の内2丁目計画（仮称）の建築設計業務参加希望者の公募を行った[A]。5月1日の全国紙の朝刊には、東京、大阪、名古屋中央郵便局の高層化計画が報道され、東京中央郵便局については、2011年を目途に37階建て、地下4階、延床面積19万m<sup>2</sup>の高層ビルとして建て替え、余剰スペースを貸し出して民営化後の収入源に育てる記載されている。大阪中央郵便局については2007年8月28日から設計者選定手続きが始まり、日本郵政とJR西日本の共同開発事業により梅田3丁目に延床面積20万m<sup>2</sup>の高層ビルの計画が進められている。これらの動きの背景は、国の機関であったため不動産運用を行うことはできなかった郵政省の資産が、民営化により不動産活用を行う道が開けてきたことにある。

### 東京、大阪中央郵便局は、なぜ残すべきなのか

これに対して、日本建築学会、日本建築家協会、DOCOMOMO Japanの三団体は、総務省、日本郵政公社、日本郵政に要望書を提出し、東京中央郵便局、大阪中央郵便局の保存を訴えてきた[B]。東京、大阪中央郵便局は、なぜ残すべきなのか。まず前提として両中央郵便局は「国民の財産の承継であると

いう側面」がある。民営化したといつても政府がその株式の100%を保有しており[C]、民営化後の5年間は固定資産税が半額に減免されている。これまで国有財産であった経緯や、現時点でも国有財産に準じた扱いであることも視野に入れて検討する必要がある。

東京中央郵便局は1931年、大阪中央郵便局は1939年に竣工したが、同時期に建設された通信省簡易保険局（1929年）、通信省貯金局（1930年、大蔵営繕）、旧文部省庁舎（1933年）はどれも様式建築である。海外ではグローピュウスガバウハウス（1926年）を、ル・コルビュジエガスイス学生会館（1930年）を、ジャン・ブルーヴェガクリシーの人民の家（1937～39年）を建てた時代で、世界中で近代建築の姿が模索されていた。吉田鉄郎は外国の物まねではなく、日本の近代建築の姿を東京、大阪中央郵便局の設計において生み出した。無駄を排した極限まで洗練された構造体の表現はその後、通信建築、郵政建築の設計理念の基盤となり、全国各地に建設された庁舎建築のデザインに大きな影響を与えてきた。日本が近代化していくプロセスにおいて、真に日本的なものを示し得た最初の建物として、両中央郵便局はその姿を、次の世代に継承していくことが望まれる。

### いかに残すか。その保存方法について

吉田鉄郎は屋上手すりひとつでも全体のエレベーションを描いて検討を行い、部分と全体の究極的な調和を目指した。建物を部分的に保存する方法では、その本質を残すことができない。東京中央郵便局、大阪中央郵便局は、戦前の建設資材が窮屈する状況下において、通信、物流の拠点として、当時の日本の最高水準の技術で設計、施工されており、適切に補修すれば今後も引き続き利用することが可能である[D]。

郵政事業を民営化した国は多いが、民営化



写真1 | 東京中央郵便局。東京駅南口を出て丸の内のビジネス街に向かうとき、白いタイルに覆われた軽やかで清楚な東京中央郵便局の姿が目の前に広がる。



写真2 | 大阪中央郵便局。郵便局発着場左に見える隣地と共同開発の予定。



写真3 | 旧アムステルダム中央郵便局。現在はマグナプラザデパート。



写真4 | 旧ハーグ中央郵便局。現在は共同住宅。

©デルフト工科大学Rob Geraedts教授

に伴い中央郵便局が壊されたという話は聞かない。オランダ、アムステルダムの中央郵便局はデパートにコンバージョン（用途転用）され、昔の建物がそのままの状態で使われている〔写真3〕。オランダ、ハーグの中央郵便局は共同住宅に転用されているが、オリジナルのデザインは残されている〔写真4〕。日本が郵政民営化の手本とするドイツ郵便も、全国の郵便ネットワークの再編に伴い使用しなくなった郵便局の多くが、他の用途に転用され、建物は保存活用されている。

日本郵政グループが東京中央郵便局の建て替え計画を発表したこととは対称的に、20年前に民営化したJRは、東京駅丸の内駅舎の復元工事に着手した。大手町、丸の内、有楽町を含む地区は特例容積率適用区域に指定されているので、未利用容積率を区域内で移転することができる〔E〕。東京中央郵便局についても同じ手法で未利用容積率を移転し、既存建物はスケルトン賃貸とすれば、郵便局会社は大きな費用を負担することなく収益を得ることができる。取り壊して建て替える場合、数百億円にもなる有利子負債が生じるが、建物を保存して賃貸する場合は、容積率の売却などにより何百億円という資金を入手することができるため、郵政事業にとっては中央郵便局を保存するほうが有利である。

大阪中央郵便局は隣地と一体的に開発できる敷地条件であるため、郵便局を保存・活用し、隣地に高層ビルを計画することができる。保存すれば改修工事費はかかるが、約4万m<sup>2</sup>分の建設費を節約できるので、取り壊すより保存したほうが事業の収益性は良くなる。

#### 東京中央郵便局を重要文化財として指定

2007年、超党派の国会議員により「東京中央郵便局庁舎を国指定重要文化財とし、首都東京の顔として将来世代のために、永く保存・活用を進める国会議員の会」が発足した。その中核となる河村たかし議員は国会で東京中央郵便局を重要文化財に指定し保存することについて質疑をされている〔F〕。国会の場で近代建築の保存問題が議論されたことの意義は大きい。街並みに配慮した佐賀県有田郵便局、外壁が保存された京都市中京郵便局も、当初は標準的な郵便局舎として設計されていたものが、日本建築学会などからの要望を受けて現在の姿がある。日本建築学会としては、両中央郵便局の保存を近代建築の保存問題として狭義に捉えるのではなく、長期的視点に立った都市の持続性と建築の更新の問題、低炭素社会における不動産開発の問題などとして認識し、引き続き取り組んでいく必要がある。

#### 注

- A——2007年10月1日実施の郵政民営化に伴い、東京、大阪、名古屋の3中央郵便局は郵便局会社に継承された。  
B——「東京中央郵便局庁舎・大阪中央郵便局庁舎保存要望書」日本郵政公社総裁、総務大臣宛など、本誌2005年10月号pp.57-61。三団体は合同で2006年7月19日、2007年8月2日、10月12日にシンポジウムを東京、大阪で開催し、両中央郵便局庁舎の保存問題について議論を行っている。なお本稿は、拙稿「都市空間の秩序を構成する『都市建築』の継承——都市建築の原型としての東京中央郵便局」、本誌2005年12月号pp.26-29、「プロパティマネジメントの社会的責任」日本建築学会大会建築経済部門PD資料『建築物マネジメントのシステム化と体系化』、2006年9月を発展させたものである。  
C——郵便局ネットワークを維持する郵便局会社については、将来的にも政府が株式の3分の1を保有する。  
D——大正15年に建設された京都三条烏丸に所在する通信省の電話交換局も、吉田鉄郎により設計されたものが、2001年1月商業施設「新風館」にコンバージョンされて活用されている。  
E——東京駅丸の内駅舎には、まだ移転されていない容積率も残っている。  
F——第168国会、衆議院決算行政監視委員会、2007年12月13日

#### 河村たかし氏 [衆議院議員]

出身校である愛知県立旭丘高校（旧制愛知一中）の建て替え問題がきっかけで、建築の保存活用にかかわることになった。昔から歴史は好きだったが、それまでは古い建物というと法隆寺か東大寺か。でも、あらためて見るとクラフトマンシップがあって、近代のものもいいもんだなあと……。しかし、県の教育委員会も同窓会も「耐震的に危険だから建て替える」の一点張り。最後は座り込みをしたのだけど、結局壊されてしまった。

その後、豊郷小学校の問題にもかかわった。これは地元の人の愛着が強かったから残った。新幹線から校舎が見えると、少しは自分がサポートできて、生きていてよかったなという気になる。

東京中央郵便局は西洋の様式の模倣ではない。いわば「ジャパニーズ・オリジナル」。そのホンモノが東京の玄関口にあって、昭和6年に建った時の鮮烈さに思いを馳せるなんて、素晴らしいことはないか。旭丘高校もそうだったが、建築の持っている良さや、本当の耐震性といったことが國民に伝えられない。最後までそれは訴えていきたい。